

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第26号

2015. 1. 3



よしつねせんほんざくら
『義経千本桜』

文楽応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

QRコードはこちら



HP



Twitter

文楽応援団

検索

文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②文楽関係の展示
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

新規団員を募集します

文楽の普及のためにあなたも応援団に参加してください

国立文楽劇場の友の会会員であることが必要です

募集要領・申込用紙は国立文楽劇場1階展示室の文楽応援団連絡デスクにあります
締切は平成27年1月26日(月)です



めいどのひきやく
『冥途の飛脚』

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当

TEL 06(6212)5332 FAX 06(6212)1202

『文楽応援団の皆様へ』

一人形浄瑠璃文楽にかける情熱

国立文楽劇場営業課長

鈴木 一夫

昨年、国立文楽劇場が開場三十周年を迎えました。私は昨年十月に国立文楽劇場開場三十周年公演を前に文楽劇場へ赴任いたしました。大阪への転勤は三度目になります。一度目は営業課会員観客係、二度目は企画制作課、そして今回の営業課勤務となります。

最初の大阪赴任の時、応援団は発足間もない頃であったように思います。東京の国立劇場には組織されていない応援団の活動を、正直なところ応援団の皆さんは何をするの？どこまで普及活動ができるの？と、当時は思っておりましたが、その頃から、展示室へご来場いただきお客様へ、親切にまた丁寧に、まさに「おもてなし」の心をもって、文楽の三業について説明している姿が印象に残っています。

その後の文楽普及のためのキャンペーンや文楽列車などのイベント行事の折、現地に駆け付け、率先してお手伝いしていただく姿には、営業課を預かる私としては、頭が下がる

思いです。

体験コーナーは、大勢のお客様に好評を得ていますし、きめ細かいポスター掲出、チラシの配布など、文楽普及のために職員に先駆けて、活動されている姿には驚かされます。

また、応援団のメンバーには外国語に堪能な方もおられ、外国人観光客が増えた大阪に於いては、語学力をいかした解説は、国際交流に貢献をされています。

更に、応援団の皆さんは、自主的な研修会を重ねておられ、関西周辺のゆかりの地への積極的訪問と公演周知等多岐にわたって活動されています。研究者の先生方や技芸員顔負けの文楽に対する愛情と熱心さは、しばしば話題になっています。文楽を取り巻く環境が厳しくなっている中、皆様方の応援に私達劇場スタッフも、時に励まされ勇気や頑張りをいただくことがあります。

これからも縦横無尽な応援活動によつて「人形浄瑠璃文楽」にお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。今後ますます応援団の皆様方の文楽に対する思いや情熱の輪が広がっていくことを願っております。

やっぱり文楽はやめられない！

其の二十一

『文楽ゆかりの地バスツアー』に参加して

塩田 裕佳子
中村 愛

今年の文楽応援団「文楽ゆかりの地ツアー」は十一月三十日小春日和の中、和歌山方面に参りました。

参加者二十五名を乗せたバスはまず道成寺へ。宝佛殿で国宝の千手観音や宮子姫像の説明を受け、お参りした後は愈々「絵説き説法」。安珍と清姫の物語、ご住職の御言葉借りるならば約1100年前におこったストーリー事件です。絵巻物を使い、面白可笑しく説法をしていたきました。能や歌舞伎の乱拍子のシーンの元になったという六十二段の石段を下り参道をウロウロ。安珍ならぬ餡子の入った釣鐘饅頭や野菜に心が傾きます。お寺近くの蛇塚を見学した後に昼食となりました。

午後からは日高川にかかる野口新橋のたもとで大蛇のモニュメントを見てから、小栗判官が照手姫と立ち寄りご加護を頼んだという東光寺に移動。ご住職からお話を伺い薬師堂を拝観、枇杷の葉茶を頂きました。お寺の裏山には枇杷が多く自生して

おり、小栗判官も参詣の折に枇杷の葉湯で湯治したと伝説にもあるそうです。

お次は千里観音。小栗判官が災難を救ってもらったお礼に、自ら馬頭観音を彫って奉納したといわれています。が、ご本尊は五十年に一度の開帳の為、拝観叶わず。観音堂から坂道を下った左手は千里の浜、伊勢物語や大鏡にも登場する景勝地です。辺り一帯はさざれ石でも有名で、見せていただいた石は、一体化した小石が模様となった、ずしりと重みのあるものでした。

最後は鬨鶏神社、武蔵坊弁慶ゆかりの神社です。熊野権現を勧請しており本殿は熊野本宮大社が増水で流失する以前の社殿の形を再現しています。源平合戦の折、弁慶の父と伝えられる別当湛増が社前で紅白の鶏を戦わせ、どちらに味方するかを決めた故事からこの名前がついたと云われています。

ちようど鬨鶏神社を発つ頃に降り始めた雨の中、一同は帰阪の途につきました。

文楽の題材にもなっている伝説・史実盛り沢山の和歌山の地で、好奇心を刺激される一日を過ごすことができました。

「やっぱり文楽はやめられない！」

最近の活動風景



八尾天満宮にて 2014.8.23



オオサカゼンリョより解説依頼



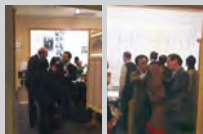
熟塾 20周年イベント 2014.10.25



大阪あそびより解説依頼 2014.11.1



摂南大学へ出前解説 2014.10.22



ゆかりの地めぐり 2014.10.5



演目ゆかりの
バスツアー
2014.11.30



11月公演展示室の様子

文楽応援団 東西と一さい



- * 竹本住大夫師が「文化勲章」を受章されました。
- * 豊澤富助さんが「平成26年度外務大臣表彰」を受けられました。
- * 吉田玉女さんが「八尾市文化賞」を受賞されました。
- * 鶴澤清治さんが「日本芸術院新会員」に選出されました。
- * 豊竹咲大夫さんが大阪市民表彰「文化功労部門」で表彰されました。
- * 鶴澤清治さんが大阪市民表彰「文化功労部門」で表彰されました。
- * 鶴澤清志郎さんが「平成26年度咲くやこの花賞」を受賞されました。
- * 文楽応援団 HP 来訪数 59,485 人、文楽応援団 ツイッターのフォロワーが 1,970 人になりました。(2014.12.18 現在)
- * 次回公演予定
東京：2月14日～3月2日
- * 吉田玉女さんが4月「二代目吉田玉男」を襲名されます。



大阪公演：
4月4日～4月26日
東京公演：
5月9日～5月25日

BUNRAKU DANCES

Short dance pieces are common in kabuki, a theatre form originating in dance. But we see them less in bunraku, which is more text-centered and tends to stage long, serious plays. Yet a January bunraku production is never without at least one decorative dance piece to ring in the new year. This year we have two, the *michiyuki* travel dance from the period epic *Yoshitsune Senbon Zakura*, and the relatively modern work that opens our program, *Hanakurabe Shiki no Kotobuki*, or “Festive Competition of the Four Seasons.”

Hanakurabe is an unusual piece in four parts, all except one for solo women. The last segment, representing winter, comes from an old kabuki treatment of the “heron maiden” ghost tale, but all the others were choreographed by 20th century avant-garde dancer Umemoto Rikuhei (1897 – 1985), a pioneer of the *shin-buyō* “new dance” movement. Rikuhei was an Osaka specialist in the classical *buyō* dance fundamental to kabuki and in the Kyoto *kamigata mai* performed by geisha. In 1921 he staged his first experimental piece, “From Spring to Autumn,” and

remained influenced by modern and European choreography throughout his long career. Rikuhei’s brisk, psychologically incisive style is perhaps most apparent in our autumn segment, *Sekidera Komachi*, from the noh story of a tragic legend about the ancient poetess Ono no Komachi, alone in her old age and dreaming of lost love.

Bunraku puppeteers are accomplished masters of classical dance, in which they train from an early age. This is apparent in the smooth timing of their movements and in the astonishing synchronization that each group of three maintains. Although bunraku was founded on narrative arts dating back to the medieval period, its puppetry shares its roots with kabuki, which grew from popular dance forms considered modern, even shocking, in their day. Hence the uncanny realism of the dolls, and the graceful, minute movements they employ to express human emotions.

Faith Bach
Earphone Guide

- 7/19 夏休み文楽特別公演初日。展示室解説、演目解説など、8月4日まで。
応援団通信第25号3,000部発行。
- 7/30 神戸女子大学教育セカ-より解説依頼、14名。担当:安藤。
- 8/ 4 大阪府高等学校国語教育研究会梅田先生より解説依頼、7名。担当:安藤。
- 8/ 9 スタッフ会議。出席:10名。
- 8/23 八尾天満宮「青空ぶらり市」にて文楽フジ配布活動。
参加:荒木、今井、長、木田、榊田、関口、松井、安藤。
- 8/30 第5回研修会。出席:44名。
学習会①「鍵の権三重帷子」の中の「真の台子」について。講師:長。
学習会②「床本」を読む。
- 9/ 4 第5回研修会報告書発送作業。世話人:松井、安藤。
- 10/ 5 演目ゆかりのまち歩き。八幡市、橋本、大宝寺、桜川、難波。参加者:15名。
- 10/11 スタッフ会議。出席:10名。
- 10/17 活動写真ハ初作成 Part I。世話人:荒木、安藤。
応援団HP編集会議。出席:5名。
- 10/18 第6回研修会。出席:44名。解説日程調整。
11月公演演目説明。講師:藤田。
学習会「奥州安達原の相関図」について。講師:榊田。
- 10/22 摂南大学へ出前解説、70名。担当:油田、荒木、木田、榊田、目黒、安藤。
- 10/25 「熟塾20周年イベント」でのフジ配布活動。
参加:油田、岡持、長、塩田、関口、畑、中村、安藤。
- 10/28 第6回研修会報告書発送作業。世話人:松井、安藤。
- 10/30 第活動写真ハ初作成 Part II。世話人:荒木。
- 11/ 1 11月公演初日。展示室解説、演目解説など、11月24日まで。
- 大阪あそ歩より解説依頼、17名。担当:馬越、山本、安藤。
- 11/ 5 材料ハ初より解説依頼、7名。担当:油田、荒木、谷野、藤田。
- 11/ 7 中日新聞より取材を受ける。担当:安藤。
応援団通信第26号第1回編集会議。出席:2名。
- 11/10 材料ハ初より解説依頼、8名。担当:荒木、齊藤、二神、安藤。
- 11/14 柴島高校英語科より解説依頼、9名。担当:松井、安藤。
- 11/15 材料ハ初より解説依頼、15名。担当:荒木、馬越。
大阪府高等学校国語教育研究会梅田先生より解説依頼、7名。担当:岡持、羽田。
- 11/29 スタッフ会議。出席:7名。
応援団通信26号第2回編集会議。出席:2名。
- 11/30 演目ゆかりのハスア。参加:25名。
道成寺、日高川、東光寺、千里観音、關鷲神社。
- 12/ 4 応援団通信26号第3回編集会議。出席:2名。
- 12/13 第7回研修会。解説日程調整。
初春公演演目説明。講師:藤田。
学習会「床本」を読む。
一年間の総括。
- 12/17 読売新聞より取材を受ける。担当:安藤。
- 12/18 活動写真ハ初作成 Part I。世話人:荒木、安藤。
応援団通信26号第4回編集会議。出席:2名。
- 12/19 第7回研修会報告書発送作業。世話人:松井、安藤。
- 12/22 応援団HP編集会議。出席:5名。
- 12/26 活動写真ハ初作成 Part II。世話人:荒木、安藤。

文楽公演

平成27年 3月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『曾根崎心中』^{そねざきしんじゅう}「生玉社前の段」「天満屋の段」「天神森の段」 『義経千本桜』^{よしつねせんぼんざくら}「道行初音旅」

【夜の部】「解説」『菅原伝授手習鑑』^{すがわらでんじゅてならいかみ}「寺入りの段」「寺子屋の段」 『釣女』^{つりおんな}

地方公演チケットお問い合わせ先

3月7日(土) アステールプラザ (広島市) 082-244-8000	3月20日(金) 倉敷市芸文館 (倉敷市) 086-434-0010
8日(日) 戸畑市民会館 (北九州市) 093-562-2655	21日(土) 熊本県立劇場 (熊本市) 096-363-2233
10日(火) 茅ヶ崎市民文化会館 (神奈川県) 0467-85-1123	22日(日) かごしま県民交流センター (鹿児島市) 099-223-4221
11日(水) 大田区民プラザ (東京都大田区) 03-3750-1611	25日(水) 生野メインホール (兵庫県朝来市) 079-679-4500
13日(金) サンパール荒川 (東京都荒川区) 03-3802-7111	26日(木) 京都府立文化芸術会館 (京都市) 075-222-1046
14日(土) 保谷こもれびホール (西東京市) 042-421-2323	27日(金) 京都府立文化芸術会館 (京都市) 075-222-1046
15日(日) 牛久市中央生涯学習センター・(茨城県牛久市) 029-886-8993	28日(土) 四日市市文化会館 (三重県) 059-351-2915
18日(水) iichiko総合文化センター (大分市) 097-533-4004	

文楽応援団通信 第26号 2015年1月3日

編集・発行 文楽応援団 (年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-5332 FAX06-6212-1202